

# コロナ禍における学生の外出行動について（速報）

—— 時間地理学の観点から ——

武市 伸幸

## 1. はじめに

2019年12月初旬に中国の武漢で始まった新型コロナウイルス感染症の流行（以下コロナ禍とする）は、日本の学生の日常生活にも大きな影響を及ぼした。本校においても、2020年度と21年度前期は Classroom を通しての遠隔授業が主流となり、学生の外出にも大きな制約が課せられた。他方、2022年度前期は教室での対面授業が主流となり、学生の日常生活も一部はコロナ禍以前の状況に戻ったように思われた。そこでコロナ禍の最中の2021年度前期とコロナ禍が一時収束した2022年度前期において、時間地理学の手法を用いて学生の一日の外出行動の違いを検討した。

## 2. 時間地理学の考え方

時間地理学はスウェーデンの地理学者 Hägerstrand が提唱した考え方で、時・空間収支研究の一つとして、物理的環境の中で、人間に否定的に作用している制約を研究することにより、人間の空間的行動を説明しようとするものである（杉浦, 1989）。杉浦（1989）および高橋（1990）より時間地理学における人間行動と人間行動に対する制約をまとめると次のようになる。

時間地理学では、人間行動はすべて合目的的なものであり、人間はその目的を達成するため一連の行動計画（project）を立てるものと考えられる。時間地理学においては、この計画はその実行に際し多くの制約を受けるものとし、その制約を①能力の制約、②結合の制約、③管理の制約の3つに大別している。ここで、①能力の制約とは、人間としての生物学的な性質、あるいは人が入手できる道具や技術の限界から生じる活動の制限のことで、睡眠や食事といった生理的制約と、移動を制限する物理的制約（各自が利用可能な移動手段等）がある。②結合の制約とは、個人が特定の期間内に特定の場所にいる個人と出会ったり、何らかの施設や設備を利用しなければならないとき必要となる時間的、空間的

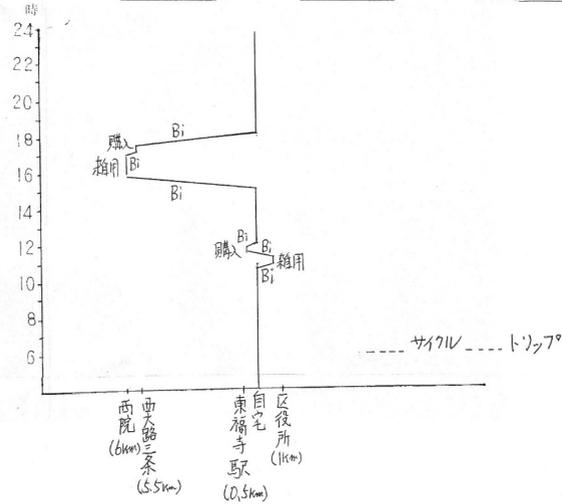
条件のことで、職場での勤務時間や銀行・郵便局の営業時間、およびそれらの位置関係などが該当する。③管理の制約とは、たとえば職場に関係者以外が立ち入るには許可が必要といった、個人がドメイン (domain) と呼ばれる管理領域にどの程度自由に入れるかについての条件とされている。各人の一日の行動はこれらの制約の中でもっともよいと考えられる経路で行われ、また、複数の人々の経路の集合は各人の計画をこれら三つの制約のもとで競合的に実施した結果と考えることができる。

### 3. 調査結果

時間地理学では個人の一日の行動は一連の線で表される。例として学生に示した筆者にある日の行動を第1図に示す。図は縦軸が時間、横軸が場所(停留点)を表している。図において個人がある一つの場所に留まっているときは縦の線、一つの場所から別の場所に移動しているときは斜めの線で表されている。調査は縦軸と、横軸に自宅の位置のみ記入した用紙を配布し、学生に一日の行動を記入させた。また調査は2021年4月30日の人文地理学の授業時と2022年5月6日の授業時に行い、各々前日の行動を記入させた。なお、2021年の調査日はコロナ禍により外出が制限され遠隔授業が実施されている日であり、また、2022年の調査日は祝日であり、共に学生は大学に通う必要のなかった日である。

調査結果のうち、各調査日の学生の外出行動のサイクル数とトリップ数を第1表に示す。サイクル数については、両者とも1サイクルの行動が多く、2021年は17例中11例で全体の64.7%、2022年は18例中13例で72.2%であった。なお、学生の外出行動は、前者は3サイクルまで、後者は2サイクルまでであった。若林(1984)による広島都市圏に住む1万人あまりを対象とした調査においても、サイクル数は1サイクルが全体の84.0%で最も多く、3サイクルまでの行動が大半を占めていることから、今回の調査は、サイクル数においては若林(1984)の調査結果とほぼ一致している。またトリップ数については、2トリップが最も多く、次いで4トリップの順になっている。このようにコロナ禍およびその終息後の学生の外出行動は1サイクル2トリップというもっとも単純な行動が基調となっていた。

次に各学生の外出行動について検討する。第2表は2021年の調査における各学生の外出行動をまとめたものである。当時はコロナ禍による外出制限が行われていた時期であり、学生の外出行動はアルバイトに行くものが最も多く、トリップ数が多くなるにつれて買い物行動が多くなっている。学生の移動手段は



第1図 学生に例示した筆者のある日の外出行動

第1表 サイクル数とトリップ数

サイクル数	トリップ数	2021年度	2022年度
0	0	0	1
1	2	6	11
	3	3	1
2	4	2	1
	5	3	0
3	6	1	0
合計		17	18

2021年度と2022年度の単位は人

2021年度		2021年4月29日(木)の外出行動	利用交通機関	外出時間帯
サイクル数	トリップ数	2021年4月29日(木)の外出行動		
1	2	自宅→アルバイト先→自宅 自宅→大学(練習)→自宅 自宅→公園→自宅 自宅→アルバイト先→自宅 自宅→アルバイト先→自宅 自宅→アルバイト先→自宅	不明 バイク 不明 徒歩 自転車 自転車	夜間 午後～夜間 夜間 夜間 夜間 夕刻～夜間
3	3	自宅→郵便局→ローソン→自宅 自宅→キタムラ→病院→自宅 自宅→アルバイト先→スパー→自宅	不明 不明 自転車	午後 午前 午後～夕刻
4	4	自宅→大学(購入)→セガ→アルバイト先→自宅 自宅→買物→垂水駅(遊び)→名谷駅(買物)→自宅	自転車, 電車, バス 電車	午後～夜間 昼～夕刻
4	4	自宅→花屋→自宅→スパー→自宅 自宅→店(昼食)→自宅→スパー→自宅	自転車 不明	午前, 午後 昼, 夕刻
2	5	自宅→アルバイト先→公園→自宅→スシロー→自宅 自宅→ソフトラック→自宅→イオン→ツタヤ→自宅 自宅→ヤマダ電機→自宅→マクドナルド→ロードコモン→自宅	自転車 自転車 自転車 自転車	午前～午後, 夕刻 昼, 夕刻 昼, 夕刻～夜間 昼, 夕刻
3	6	自宅→店(昼食)→自宅→不明→自宅→アルバイト先→自宅	自転車	昼, 夕刻, 夜間

外出時間帯は目的地に到着する時間が11時までの場合は「午前」、11時から13時の場合は「昼」、13時から17時の場合は「午後」、17時から19時の場合は「夕刻」、19時以降は夜間とした。第3表も同じ。

第2表 個々の学生の外出行動(2021年度)

2022年度		2022年5月5日(木)の外出行動		利用交通機関	外出時間帯
サイクル数	トリップ数				
0	0	自宅→昼食→自宅		自転車	午後
1	2	自宅→アルバイト先→自宅	自宅→アルバイト先→自宅	不明	夕刻～夜間
		自宅→アルバイト先→自宅	自宅→アルバイト先→自宅	徒歩, 電車	夕刻～夜間
		自宅→大学(練習)→自宅	自宅→大学(練習)→自宅	自転車, 電車	昼～夕刻
		自宅→大学(練習)→自宅	自宅→大学(練習)→自宅	バイク	午前
		自宅→大学(練習)→自宅	自宅→大学(練習)→自宅	自転車	午前
		自宅→大学(練習)→自宅	自宅→大学(練習)→自宅	バイク	午前
		自宅→大学(練習)→自宅	自宅→大学(練習)→自宅	バイク	午前
3	4	自宅→イオン→自宅	自宅→イオン→自宅	バイク	午前
		自宅→大学(練習)→くら寿司→自宅	自宅→大学(練習)→くら寿司→自宅	自転車	午後～夜間
2	4	自宅→アルバイト先→ラーメン屋→アルバイト先→自宅	自宅→アルバイト先→ラーメン屋→アルバイト先→自宅	自転車	午前, 夕刻～夜間
		自宅→大学(練習)→自宅→アルバイト先→自宅	自宅→大学(練習)→自宅→アルバイト先→自宅	自転車	昼, 夕刻
		自宅→昼食→自宅→夕食→自宅	自宅→昼食→自宅→夕食→自宅	自転車	昼, 午後～夕刻
		自宅→不明→自宅→不明→自宅	自宅→不明→自宅→不明→自宅	バイク	午前, 夕刻～夜間
		自宅→大学→自宅→マックスバリュ→自宅	自宅→大学→自宅→マックスバリュ→自宅	自転車	

第3表 個々の学生の外出行動 (2022年度)

自転車が最も多く、また外出時期はアルバイトのみの場合は夜間が、買い物行動も行う時は昼前後からの外出は多く、午前からの外出は少ない。

第3表は2022年の調査における各学生の外出行動をまとめたものである。学生の外出行動の目的地で大学が最も多くなっているのは、ある運動クラブに属している学生が多く受講しているからである。大学以外の目的地では2021年の結果と同様アルバイト先が多く、またその場合は1サイクル2トリップのことが多かった。目的地がアルバイト先でない場合は食事の場合が多かった。なお、2022年には一度も外出しなかったという学生もみられた。学生の移動手段と外出時期は、クラブ活動で大学に来た学生はおおむねバイクを利用して午前中に外出しているが、徒歩や自転車、電車等さまざまな交通手段を利用し、外出時期は夕刻から夜間が多かった。

#### 4. まとめ

以上の結果より次の点が明らかになった。

- ① コロナ禍の渦中においても、コロナ禍終息後においても、大学に行く必要のない日の学生の外出行動は1サイクル2トリップが最も多い。
- ② 学生の外出時の利用交通手段は自転車が多く、外出時期は、クラブ活動は午前が、アルバイト等では午後以降が多い。

今回の調査ではコロナ禍終息後の外出に制限がかかってない時期よりもコロナ禍の時期の外出のほうサイクル数、トリップ数ともに多様性に富んでいた。今後もさらに調査を行い、学生の外出行動について、コロナ禍渦中とコロナ禍終息後の学生の外出行動について、時間地理学の観点からその特性の検討を行っていきたい。

#### 参考文献

- ・杉浦芳夫 (1989)：『立地と空間的行動』。古今書院。
- ・高橋伸夫 (1990)：『日本の生活空間』。古今書院。
- ・若林芳樹 (1984)：広島都市圏住民の日常的空間行動パターン ―多目的行動を中心として―。人文地理, 36, 111-130.